

INTEGRATED REPORTING <IR>

IIRC ニュースレター 2月号

「統合報告」のトレーニング

企業からの要請を受けて、IIRC は、教育研修の開発者や提供者と共に世界中の市場の個々のニーズに合わせる事ができる能力開発プログラムのシラバスの作成に取り組む予定だ。

IIRC の Managing Director Global Implementation である Neil Stevenson は、「私たちは、『統合報告』の推進に必要なスキルと知識を有していることを証明したいと考えている組織に対してトレーニングを提供するために、ギャップがあることが分かった。IIRC は、教育研修の提供者が自社の既存のプログラムに組み込める高水準のシラバスを専門家と共に作成していく。これは、『統合報告』の一貫したグローバルな実施を確実なものにするだろう」と述べた。

アドバイザーグループが設置される予定であり、専門家の解説を提供したり、市場との適合性を確保したりする。また、トレーニングは、既存のトレーニング提供者や教育機関を通じて行われる。IIRC は、スキルや専門知識の提供、財政面でのサポートやトレーニングの提供に関心のある開発者や提供者を求めている。

トレーニングの開発や提供にご興味・ご関心のある方は info@theiirc.org までご連絡をお願いいたします。

ゲストブログ:

統合報告は
サステナビリティを
改善するだろうか？

Macquarie
University Dr Dale
Tweedie と Prof.
Nonna Martinov-
Bennie



Philips : 統合報告に
おける事業の見通し

Philips Annual
Report 2014 を
ご覧ください。

ISO 基準を補完する 「統合報告フレームワーク」

「ISO26000 と『国際統合報告フレームワーク』は、統合思考の促進を通じて、社会や投資家のために生み出す価値についての企業の理解をサポートし、また、そうした価値の向上にも役立つ。ISO26000 と『国際統合報告フレームワーク』は、企業が短期、中期、長期に渡り価値をどのように提供するつもりかを伝えることを奨励している。」これは、ISO26000 と「国際統合報告フレームワーク」がどのように役立つのかを考える International Organization for Standardization (国際標準化機構) による出版物の見出しであった。

出版物によれば、「IIRC が、統合思考とその報告に役立つ包括的なフレームワークを提供する一方、ISO26000 は、特に組織内で展開する際に、どのように統合思考を捉えるべきかについての詳細なガイダンスを提供している。統合報告への取り組み方を模索しているならば、『国際統合報告フレームワーク』を補完するものとして、ISO26000 の利用を検討することを推奨する。」

2010 年に公開された、国際規格である ISO26000 は、社会的責任についてのガイダンスを提供しており、想定利用者はあらゆる分野のあらゆるタイプ・規模の組織である。ますます要請が強まる社会的に責任のある方法で組織が行動するよう努めることをサポートする。

この出版物は、企業が異なる規格とフレームワークを利用しようとする際に役立つものである。IIRC の CEO である Paul Druckman は以下のように述べている。「私たちは、効果的なコミュニケーション実現のために、我々のフレームワークと合わせて ISO を用いることを推奨する。そうすることで、ビジネスがより明瞭になると考えている。利用可能なさまざまな規格やフレームワークがある。しかし、それらすべてをどのように自社にフィットさせるかについての情報が不足している。私たちは、ISO の出した結論に100%同意している。社会的責任に関し



[Itaú Unibanco: 統合報告は競争優位を提供します。](#)

[Itaú Annual Report 2013](#) をご覧ください。

て『統合報告』と ISO が一致・結合されている部分が非常に多い。」

続けて、Paul Druckman は、「ISO は、Corporate Reporting Dialogue (CRD) の重要な参加団体である。CRD は、IIRC によって導入されたものであり、企業報告に関するフレームワーク間のより確かな一貫性、整合性と比較可能性を促進するためのイニシアティブである。そして、今後数ヶ月の間に CRD は、ISO26000 を含む企業報告のイニシアティブがどのような関係にあるのかに関して現時点での全体像がわかるマップを公表する予定である。」と述べている。

人は私たちの最大の資産である

2014 年、イスタンブールで行われた昨年最後の IIRC Council 会議は、人的、知的及び社会的資本の報告に関する進捗状況について議論を行った。昔から広く採用されている報告のフレームワークにはなかった資本にもかかわらず、長期的な価値創造の中心（源泉）である。

最も大きな分野の一つは、人的資本の報告である。少なくとも過去 20 年間、人材は、私たちの最大の資産であると言われている。何が変わったのだろうか？一つは、投資家にとって人材に関する重要性が高まっていることである。2015 年 2 月 10 日のハーバード・ビジネス・レビューでは、David Creelman 氏と John Boudreau 氏が、「人的資本は、財務資本（あるいはその他の資本）と同じくらい厳密に扱われるに値する」と主張している。また、「マネージャーは、財務、サプライチェーン、マーケティングなどのより定量的な分野で開発されたフレームワークを適用すべきである」と述べている。加えて、「マネージャーは、じきに人的資本と組織能力に関する意思決定について、多くの説明責任を果たすようになるだろう」とも述べている。

おそらく、ここで最も大きなドライバーとなるのは、投資家の需要である。「統合報告」は市場主導型なので、多くの組織が一体となって人的資本に関する報告を行うことが喜ばしい。特に、「国際統合報告フレームワーク」が提示している価値創造モデルに適合した報告は一例と言える。「Human capital reporting – investing for sustainable growth」は、IIRC Council のメンバーである Chartered Institute of Management Accountants (管理会計士勅許協会) など、幅広い組織によって開発された。「人材を通じて持続的価値創造を実現する自社の能力を統合的に理解し、説明している企業はとても少ない」という洞察に基づき、本報告書は、変化への道筋を要約する。

IIRC は、[UN Guiding Principles Reporting Framework](#) の設立を歓迎している。我々はこのフレームワークが人権についての報告を改善したい企業にとってわかりやすく、また統合報告書に含むべき人権に関するコンテンツを特定するための指針になると考えている。

企業は、幅広い観点から価値創造についての事例を作っているところだ。Unilever の Chief HR Officer である Doug Baillie 氏は、「人的資本の報告に取り組むことで、事業の健全性についての説明責任を高めており、より高い透明性と一貫した企業像を我々のステークホルダーに提示している。人々の可能性を解き放ち、人的資本の報告に取り組む事例を周知させることにより、正確な企業像を持つことが競争優位に繋がる。」と述べている。[Philips](#) が新たに発行した統合報告書を見ると、全体の人材配置や研究開発への投資、エンゲージメントスコア、従業員一人当たりの売上高を簡単に知ることができる。

これらは、「統合報告」がもたらしうる 2 つの影響、強化されたプロセスとより良いアウトカムを示している事例である。統合報告と統合思考を行えば、単なるスローガンを掲げるようなことは終わりにできるだろう。価値を創造するために用いられるその他の資本とともに、人的資本がいかに最も素晴らしい資産であるかを示すには、使い古されたフレーズを使用するよりも、報告を使用すれ

ば良い。

IIRC の Managing Director -Global Implementation である Neil Stevenson 氏のブログより。

ザンビアにおける「統合報告」：「統合報告は、価値創造に関する表現をより充実させるレポーティングプロセスを社内に定着させるものである。」

The Institute of Directors Zambia の President である Sherry Thole 氏は、「統合報告に取り組むと、組織は、レポーティングの仕組みについて真剣に考えるようになり、組織の意思決定をステークホルダーに説明するよう努めるようになるだろう。」と述べている。ザンビアでは今、投資を呼び込む際のコーポレートガバナンスの役割、特に透明性、説明責任、企業行動といった分野について見直しが進められている。「統合報告」は、より良いガバナンスへ向かうこうした動きの中で、重要な役割を果たすことができ、組織のリスクや戦略、長期視点での計画に対する実行可能性について、より深い洞察をもたらすだろう。

IIRC の Chairman である Mervyn King 博士は、2月にザンビアで、ザンビアにおける良い企業報告とガバナンスの発展について論じた。40の企業から100人以上がセッションに出席した。セッションでは、「統合報告」は、組織が活用し影響を及ぼしている全ての経営資源へ企業の目をどのように向けさせるのかについて議論し、そしてそれがより良い意思決定と統合思考をもたらすことについて話し合った。

ZICA (Zambia Institute of Chartered Accountants) の CEO である Hapenga Kabeta 氏は、以下のように述べた。「ザンビアにおいて国際的に比較可能な実務基準を促進することは、我々 ZICA の主要な機能の一つである。それゆえ、他に先駆けて統合報告を企業報告のメインストリームにすることにわくわくする。というのも、統合報告は、戦略、ガバナンス、実績と外部環境に関する見通しについての情報を簡潔に周知させる機会を組織にもたらすからだ。

統合報告は、価値創造に関する表現を充実させるレポートングプロセスを社内に定着させる。これにより組織の透明性が増し、投資の呼び込みに役立つ。統合報告は、短中期的な価値創造だけでなく、長期的な安定性と持続可能な成功の新しいアジェンダへ組織を導くパラダイムシフトであると考えている。アフリカの Region Lead である Ian Jameson は、ZICA AGM が来月ザンビアで開催するワークショップに参加し、戦略的なリーダーシップと統合報告をテーマに講演する予定だ。「ザンビアの主要な方々が統合報告をコーポレートガバナンス強化の機会と見なしてくれていることを嬉しく思っている。すでに『統合報告』に着手している企業からは、投資家との対話が促進したなどのさまざまな効果が報告されている。ザンビアでも同じような手ごたえを感じるようになるだろう」と Ian Jameson は述べた。

**2015年2月17日付の Zambia Daily Mail から*

「統合報告」普及に向け、 オランダ勅許会計士協会と 新たな協力

IIRC は、「統合報告」の対象を新たに広げ、採用ペースの加速、規模の拡大を目指して、主要な関係組織と協力強化を進めている。オランダの会計機関である NBA(The Netherlands Institute of Chartered

Accountants : オランダ勅許会計士協会) は、IIRC との協力強化を進める最も大きな組織であり、世界中のマーケットにおいて「統合報告」の認知度をアップさせ、「統合報告」の勢いを加速させている。こうした活動を通じた採用数の増加は、「統合報告」がマーケットへもたらすメリットを経験できるだろう。

はじめに、NBA はオランダの国内外で、統合報告ビジネス・ネットワークを通じた採用数拡大に向けて重点的に取り組む計画である。ビジネス・ネットワークは、統合報告にチャレンジしている企業をサポートするものであり、参加組織は、新しいリソースが利用でき、また、経験豊富な仲間との繋がることもできる。さらに、実務上の気づきや課題を議論することができる。

オランダには、「統合報告」の傑出したリーダーとともに、企業報告に先進的に取り組んできた歴史がある。NBA の Director International Affairs である Paul Hurks 氏はこう述べる。「統合報告は、価値創造ストーリーに関する理解やコミュニケーションの効果的な方法を見つけることをサポートし、企業や投資家、そして広範な経済のニーズにあったよりよい洞察を提供する。私たちは、ネットワークから得られる専門知識を活用し、オランダの各企業が「統合報告」を採用するキッカケをつくるために、IIRC とより密接に協働できることを喜ばしく思っている。」

統合報告ビジネス・ネットワークに関わる人々は、「統合報告」の採用に加え、統合思考の浸透やレポートの革新にすでにコミットしている。IIRC の Markets Director である Sarah Grey はこう述べる。「『統合報告』は、企業報告の次のステップとして世界中のトップに認識されている。『統合報告ビジネス・ネットワーク』の参加企業は、このステップを実現させる中心的な存在であり、いち早くそのメリットを享受することができる。時代を先取りしてきたオランダで、企業報告の先進的な取り組みに重要な役割を果たしてきた NBA との提携を喜んでいる。NBA とのパートナーシップは、『統合報告』のメリットの紹介とともに、『統合報告』にチャレンジする企業数の増加につながると期待している。」

「統合報告ビジネス・ネットワーク」の詳細については
[こちら](#)をご覧ください。



[IIRC Website](#) [Twitter](#) [LinkedIn](#) [YouTube](#)

Contact: pippa.whittaker@theiirc.org

Copyright © 2015 International Integrated Reporting Council, All rights reserved.
[unsubscribe from this list](#) [update subscription preferences](#)